双松会会報

第23号「双松会」通巻27号「松高北高同窓会報」通巻27号

発　行　松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内　双松会事務局　TEL ㉑4888・㉑0655
印　刷　有限会社松陽印刷所　TEL ㉒3418

赤山健児の絆は固し

会長　井戸内　正

私が会長に就任以来この二年の間、将に悲喜こもごもなことがございましたが、会員の皆様の尊いご支援とご協力によって無事に諸事業を推進することができましたことに対して厚くお礼申し上げます。

双松・訣別式・斧入れ式（平成十三年十月）十四年前に双松の内、直立していた一本が松喰虫に犯され関係者の必死の手当の甲斐もなく枯死し、残りの一本だけは守り通すというお互いの決意の下で万全だと思える防護対策をとって参りましたが、残念ながらそれも及びませんでした。

ここに双松をお預りしている者の一人として深くお詫び申し上げます。

赤山台上に亭々として聳え立つ双松の雄姿は質実剛健の校風をそのまま現わし、赤山教育のシンボルとして常に仰ぎ見て崇高かつ厳粛な気分にひき入れられたものであります。

また、赤山に学んだ者にとって掛け替えのない心の拠り所でもあったと思います。

双松と別れることは誠に痛恨の極みでありますが、赤山台上において双松の第二世の若松がすくすくと成長し二十一世紀、二十二世紀には再び、後輩諸君に質実剛健のシンボルとして敬愛されることでありましょう。

百幾十年の長きに渉り在校生、卒業生のシンボルとして君臨してくれたことを双松に感謝し、樹霊の永へに安らからんことをお祈り申し上げます。

創立百二十五周年記念総会

（平成十三年十一月）

双松を失いましたこの年に、創立百二十五周年の記念総会を挙行できますことは、双松の形は失われてもその精神は永遠に受け継いでいくことの証とも思われ、卒業生一同この上ない喜びでございます。

母校は質実剛健の校風のもと三万五千余名に及ぶ卒業生を輩出し、若槻礼次郎先生、竹下登先生のお二人の内閣総理大臣をはじめ数多くの俊英たちが広範囲な分野で、また、世界の至る所で活躍され、しかもそれぞれに指導的な役割を果されていることを思いますとき、改めて母校の百二十六年の歴史と伝統の重みを痛感いたす次第であります。

去る十一月十七日にホテル一畑において記念式典が執り行われ約三百七十名のご参集を得て厳粛な中にも盛大な記念総会となりました。

記念講演の講師には近畿双松会長（和田哲株式会社代表取締役会長）の和田亮介氏にお願いをいたしました。さすが浪速きっての経済人であり、文化人である和田氏の人生の味わい深い洒脱なお話に時の経つのも忘れる位に一同深い感銘を受けました。

記念パーティはお互いに旧交を温め、新たな出会いなどもあって和気藹々の楽しいパーティとなったことを喜んでおります。

春の選抜野球大会に出場決定

（一月三十一日）

松江北高校野球部が五十五年ぶりに春の選抜野球大会に二十一世紀枠で出場が決まったことは無上の光栄であり、この上ない喜びであります。

野球部の選手諸君の不断のご努力はもとよりでありますが、母校の伝統と質実剛健の精神を根底に捉え、文武両道と師弟同行に徹する北高教育の成果が評価されたものであると考えます。

松江北高校と福井商業高校との激闘

（三月二十九日）

半世紀以上の時を経て出場を待ち焦がれた熱い思いが爆発したかのように強豪福井商業高校を相手に一歩も引けを取らぬ戦いぶりを目の当りにして、私をはじめ当日の三塁側を埋めつくしていた六千名を超える大応援団は熱狂いたしました。

その日の野球部諸君の健闘は言うに及びません。グランドと一体となって一喜一憂したスタンド。テレビやラジオを視聴して胸を熱くした人びと。思えば今回の経験は松江北高校にかかわるすべての方々にとってすばらしい贈り物であったと思います。

我が母校百二十六年の歴史に新たな栄光が書き加えられた瞬間、そこに居合わせることができた幸せをかみしめております。

また、三塁側の応援団席ではさながら同期生会が開かれているようなもので、「よう」「やあ」「お前も来たかや」と久しぶりに再会した途端に出雲弁での談笑は誠にほほえましいものを感じました。

双松会の幹事長でありこの度も格別のご盡力を頂いています景山一功朗氏（一彦氏）と二人で募金行脚をしている中で、母校に対する熱い思いを語られる同窓の人、北高教育に対して大なる期待を寄せられる市民の方々と接するたびに、何と私たちはすばらしい学び舎で少年時代を育てて頂いたものだなあ、本当にありがたいことだ。今回は母校に対してせめてもの御恩報謝をさせて頂かねばと語り合いながら行脚を続けたものであります。

お互いに毎日の忙しさに追われて、母校愛や同窓生間が疎遠になりがちであったと思いますが、五十五年ぶりの甲子園出場という快挙で同窓生としての血が騒ぎ、赤山健児の絆の固さを深く認識することができました。

この大きな財産をいつまでも大切にし双松会の発展の糧としてまいる所存であります。

すばらしい伝統を築いてくださいました開校以来の教職員、卒業生、保護者の皆様、そして、物心両面にわたる尊いご支援を賜りました皆様に対して謹んで衷心より感謝申し上げます。

新任御挨拶

校長　和田秀穂

島根県教育界に数々の業績を残してこの四月八束郡東出雲町教育委員会教育長に就任された鞍嶋弘明前校長先生の後を受け、この度県内随一の伝統校である松江北高等学校校長に任ぜられたことは誠に光栄に存じます。もとより浅学非才の身ではありますが、本校をさらに発展させるために努力をいたしますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

先ず初めに、野球部の五十五年ぶり選抜甲子園出場に際して、双松会の皆様方から物心両面で多大な御支援を頂いたことに厚くお礼を申し上げます。日頃から卒業生を初め県民や市民の皆様方から親しまれてきている本校ですが、今回ほど「北高よくやった。」と大きな声援を頂いたことはありません。このような形で皆様から喜んでもらう素晴らしい役割を演ずることができて大変嬉しく思っています。加えて、昨年十一月十七日には創立百二十五周年記念の双松会総会がホテル一畑で盛大に開催されました。北高は明治九年創設以来遂に百二十五年の大きな節目の年を経て、双松会会員数は約三万五千人の多くを数えるまでになりました。名実ともに名門校として発展をし続けているのを目の当たりにして本当に喜びに堪えません。

さて現役生達の様子ですが、今年度も学習活動や部活動が順調に展開されております。この三月の卒業生の大学等進学状況は前々年度、前年度に引き続き大変素晴らしく、国公立大学合格者三百六十二名、私立大学合格者五百三十三名、短大等合格者七十五名でした。本当によくやってくれました。一方、運動部の方では県高校総体が五月下旬から県内各地で開催され約四百六十名もの大選手団が参加しました。そして女子が二年連続六回目の女子総合一位に輝きました。男子は松南、松工、出雲に続いて第四位でした。その結果男女総合では二位で悲願の男女総合優勝五連覇は達成できませんでしたが、心機一転、来年度はこの雪辱を晴らそうと部員一同誓っているところです。二年後の平成十六年には島根県で全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が開催されることになっています。その大舞台で北高の選手も活躍してもらいたいと思います。また、文化部のビッグイベント第二十四回定期演奏会が六月県民会館で盛大に開催され、合唱部、吹奏楽部、そして箏曲部の熱演に会場一杯の観客から大きな拍手が送られました。その他の文化部もそれぞれ熱心に活動に取り組んで成果を上げています。先日、文化庁において平成十九年度には全国高等学校総合文化祭（高総文祭）が島根県で開催されることが内定しました。運動部の活動に比べ比較的地味な文化系部活動ですが、これを契機に五年後を目指して一層活性化し、高校生の文化が大きく花開いて欲しいと願っています。

ところで、北高の象徴二本松のことですが、昭和六十二年度に一本が松くい虫被害で伐採され多くの人を残念がらせました。ところが去年残る一本も枯れ始め、ついに十月に訣別式が挙行され永年親しまれてきたこの老松に別れを告げました。今後、できるだけ早く卒業生の皆様方と相談しながら元の松の種子から育てた二世を植え育て、北高のシンボルを復活させねばと考えています。

最後に、この素晴らしい伝統のある松江北高がさらに発展していくためには国内外で活躍される双松会の皆様の母校への熱い思いと御理解が必要不可欠です。そのためにも皆様方と密接な連携を保ちつつ、我々教職員一同は地域から信頼される学校づくりに一層邁進し、二十一世紀の日本や世界に貢献できるたくましい人間を育てるよう精一杯頑張りますので、皆様の今後とも変わらぬ暖かい御支援を頂きますようお願い申し上げます。

「双松訣別式」ならびに「斧入れ式」挙行

樹齢二百有余年の双松は、松江中学以来本校の歴史を静かに見守ってきた。「質実剛健」の象徴として赤山に聳え、多くの卒業生に親しまれてきた。現在の校章も松葉を図案化したものである。

ところが、一九八七年、松くい虫の被害のために双松のうちの一本が枯れ、伐採をよぎなくされた。それから十四年後、残った一本もその役目を終えて伐採されることとなった。

この伐採に先立ち、平成十三年十月二十四日（水）には多数の卒業生、在校生が参加し、「双松訣別式」が挙行された。下段には、その時兼折博氏（元本校校長、松江中学五十二期卒）が読まれた「訣別の辞」を掲載する。続く二十七日（土）には「双松斧入れ式」が行われ、松江中学以来本校のシンボルとして教職員、在校生、卒業生の精神的支柱であった双松は二本とも伐採された。

十月二十七日、青空の下、「双松」の前に祭壇が設けられ「双松斧入れ式」は執り行なわれた。多くの双松会の会員や教職員が見守る中、式は厳粛に進められ、双松会会長、校長、工事関係者が斧入れの儀を行なった。

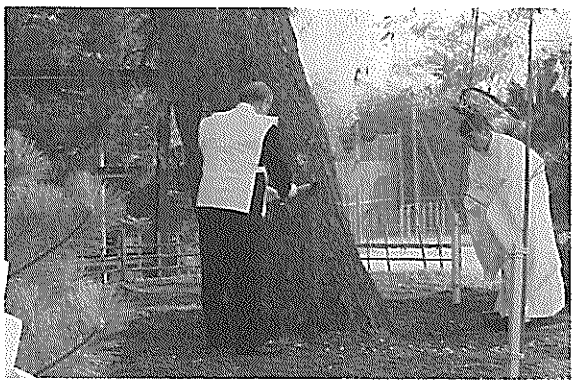
双松の最後の姿を目に焼きつけながら、赤山で過ごした青春の日々をしのぶ卒業生たちの哀切の思いが式場に満ちていた。

式を閉じるにあたっての双松会会長の挨拶の一節に、次のようにあった。

「この赤山台上において、第二世の若松がすくすくと成長し、二十一世紀、二十二世紀には、再び後輩諸君に質実剛健のシンボルとして敬愛されることでありましょう。」

「双松」に託された精神を受け継いでゆくことを心に期して、参列した誰もが双松を後にした。

伐採される松



斧入れ式の模様

訣別の辞

松江中学・松江高校・松江北高校と続いたこの学校の長い歴史の中で、二本松は常にこの学校の中心に位置する存在でした。

とくに、明治後期から大正中期にかけ、十三年の長きにわたって、松江中学校の校長として大きな功績を残された西村房太郎先生が、時代の合い言葉の如く教育の世界に流布していた「質実剛健」の語に新しい生命を吹き込まれ、これを松江中学の教育精神の根幹となされると共に、二本松をそのシンボルとして位置づけられたことは、当時の卒業生の周く知るところです。二本松とはそのような精神的意味を担わされた存在でした。

私は昭和四十九年、生徒会誌の巻頭を借り「古い鏡の前で」と題する一文を掲げ、「質実剛健」の語の持つ今日的意味をどのように理解すべきかについて述べたことがありました。

「言葉というものは、時代の流れの中で汚染され、風化し形骸になり果てがちなものである。だから言葉のもつ本質的な意味は、常に掘り起こされ、洗い直されなければならぬ。『質実剛健』の語は、その核心を見つめるならばそこには、今日の若者にとっても避けては通れぬ重く厳しいものを持っていることを知るべきであろう。それは、その語を見つめる者が男性であると女性であるとを問わぬ。」

二本松はかかる重要な言葉のシンボルとして、長くこの赤山台上に屹立していたのです。そして若者たちはこの樹下に集い、憩いの場とし、その姿から様々な示唆を受けつつ今日に至ったのです。

しかるに昭和六十二年その一樹が虫害の侵すところとなって枯れはて、今また、残された一樹も同じ運命をたどることになってしまいました。在校生諸君ばかりでなく、この学舎に生い育った卒業生、この学校の教育のことに携わった人々のすべてにとって、まことに痛恨の極みであります。

幸いにして、樹下に芽生えた多数の幼松の中から然るべきものを選び、育成し、二世二本松候補として台上に移し植えたものが、今、樹齢二十年を越えるみごとな若松に成長しています。北高創立二〇〇周年を迎える頃、樹齢百年を数える巨松として、再びこの台上にそびえ立つ日も来るでしょう。その姿を夢見、それを祈りつつ、以上をもってこの度の訣別の辞と致します。

平成十三年十月二十四日

松江高校・松江北高校第八代校長
兼折　博（松江中学第五十二期）

創立百二十五周年記念双松会総会開催

去る平成十三年十一月十七日十四時より、双松会の創立百二十五周年記念の総会が松江市内「ホテル一畑」サンシャインホールにて開催されました。

会場には、景山俊太郎参議院議員・細田重雄県議会議員・松浦正敬松江市長・澄田県知事の代理として今岡康彦県出納長、また前川太助・藤木敦両元校長、佐伯英明東京双松会会長・和田亮介近畿双松会会長・内田健二郎米子双松会会長・足立三樹夫東部双松会幹事長といった方々を来賓としてお迎えし、盛大な中にも厳粛な雰囲気のもとに右の通り記念式典は進められたのでした。

○開会のことば
○物故者に対して慰霊の黙祷
○会長挨拶（井戸内正会長）
○学校近況報告（鞍嶋弘明校長）
○来賓祝辞
○来賓紹介
○功労者表彰
　柴田午郎・兼折博・金築修の各顧問
○校歌斉唱
　（赤山健児の歌・松江北高校歌）
○閉会のことば

続いて休憩の後、記念講演が行われました。講師は近畿双松会会長の和田亮介氏。氏は松高一期の卒業で和田哲株式会社の会長をつとめる傍ら、関西の経済界を代表する人物であり、日本ペンクラブの会員であるという、まさに八面六臂の活躍をなさっている方です。

演題は「人生泣き笑い」。氏が船場の商人として成長していく前後のいきさつがユーモアを交えながら語られ、聞く人を引き込まずにはいられない、面白くかつ人生洞察にあふれたすばらしい講演でした。

その後、一二五年の歴史をスライドにまとめて振り返ってみる「スライドで振り返る一二五年」が上映されました。特に戦中・戦後の窮乏期が映しだされると会場のあちらこちらからため息とも歓声ともつかないどよめきが起こりました。本校の歴史の中でも多事多難の時期であり、またその時期に青春をこの赤山で過ごされた方々の感慨は一言では尽くせないものであったろうと思います。

十五分の休憩をはさみ、会場を「平安の間」に移して懇親会が開かれました。各テーブルは卒業期の近い人を集めるように配慮され、参加者は酒を交わしながら旧交を温め合ったのでした。

年齢で言えば約五～六十年の開きを持った方々が和気藹々とことばを交わす様子は壮観であり、また本校の歴史が連綿と受け継がれ続けていることに深い感動を覚えたものでした。

来賓の方々から簡単なスピーチをいただき乾杯。そして最後は本校の百二十五年の歴史と双松会の発展と会員の健康・活躍を祈念して万歳三唱が行われ、すべての日程が終了したのでした。

双松会125周年記念総会会計決算書

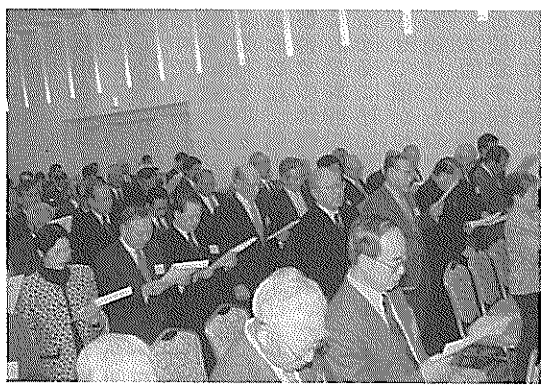
収　入	¥4,911,882
支　出	¥4,358,184
残　高	¥ 553,698 …定期預金へ（130周年記念総会用）

【収　入】（単位：円）

費　目	予算額	決算額	比較増減	備　考
125周年準備金	1,245,093	1,253,667	8,574	120周年会計より（利息分増）
式典・祝賀会会費	2,420,000	2,006,860	△413,140	式典・祝賀会238名、式典のみ117名、祝賀会のみ1名
新聞広告料	1,500,000	1,555,080	55,080	52期分
雑　収　入	0	96,275	96,275	祝金・寄付・預金利息
合　計	5,165,093	4,911,882	△253,211	

【支　出】（単位：円）

費　目	予算額	決算額	比較増減	備　考
新聞広告料	1,500,000	1,500,000	0	山陰中央新報1ページ分
会場使用料	270,000	209,800	60,200	総会会場費・祝賀会席料・控え室料
設営費等	394,000	203,943	190,057	看板・演題・飾花料・スライド制作等
祝賀会料理等	1,650,000	1,507,118	142,882	料理・飲み物・サービス料・消費税
講師謝礼等	300,000	185,316	114,684	講師旅費・宿泊費・謝礼等
印刷費	100,000	163,590	△ 63,590	払込票・総会用封筒・プログラム印刷代
通信事務費	150,000	58,390	91,610	ハガキ・切手代
会議費	50,000	19,215	30,785	麦茶・弁当代
雑費	16,000	13,275	2,725	名札・リボン代
予備費	735,093	497,537	237,556	功労者表彰・司会謝礼・タクシー代等
合　計	5,165,093	4,358,184	806,909	



全員で校歌を熱唱

歓談する参加者

祝　第74回選抜高等学校 野球大会　出場

―感動をありがとう―

松江北高野球部が、55年ぶりに甲子園出場を果たしました。今年で導入2年目を迎える「21世紀枠」での出場で、夏の全国大会予選に第1回大会からの連続出場、2年連続秋期中国地区大会出場という野球部の功績と「文武両道」を貫く北高精神が高く評価されての選出でありました。

試合当日、雨天順延で試合が一日延び、早朝の第一試合であったにも関わらず、スタンドには立見が出るほどの大応援団、凄まじい熱気の中、対福井商業戦が始まりました。

試合は2回表に岡本君が本塁打（本校野球部史上初の全国大会での本塁打）を放ち見事先制。4回裏に1点を返されましたが、6回まで試合は動かず、緊張感のある素晴らしい試合が展開されました。終盤の7回・8回に福井商業の長打攻勢により4点を奪われましたが、9回表北高打線は驚異の粘りを発揮し2点を返し、スタンドを熱狂の渦に巻き込みました。最後はあと一歩及ばず、3対5で惜敗しました。

当日スタンドに詰めかけた応援団は在校生八〇〇人に、野球部関係者の方々、近畿双松会を中心とした双松会員の方々を加え、実に六〇〇〇人の大応援団となりました。この大声援に後押しされて、選手たちも堂々とプレーすることができました。

この選抜大会出場は、選手の活躍はもとより、卒業生の方々の多大なるご支援によって、北高に関わる全ての人々の心に深い感動を残し、北高の歴史に新たな1ページを刻みました。

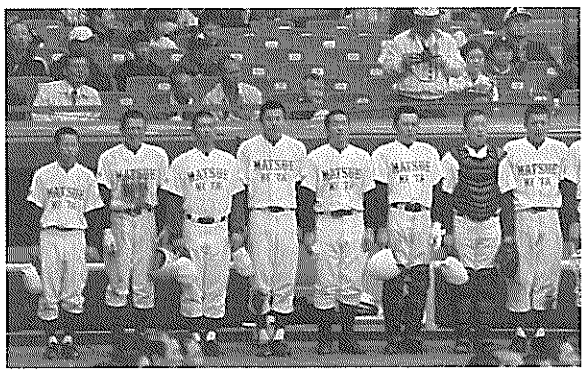
松江北　3＝010000002
福井商　5＝00010031×

部長あいさつ

野球部部長　萬治　正

今回のセンバツにおける21世紀枠での選出は、本校の県総体4連覇、2年連続国公立大学合格者数全国1位などの文武両道の実践が他校の模範的要素を備えた学校であるということが高く評価されたことはもちろんですが、近年の野球部が残してきた実績も評価されたものであると考えます。

大島監督就任以来、めきめきと力をつけてきた野球部に対して、「そろそろ念願の甲子園へ」という声が野球部のOBのみならず、広く卒業生の方々から聞かれるようになり、野球部関係者としても是非あの甲子園のアルプススタンドで同窓会を、そして校歌を、という思いが強くありました。この度の甲子園出場でその夢が叶えられたわけですが、当日アルプススタンドを埋め尽くした六〇〇〇名を超える卒業生をはじめとする関係者の皆様、テレビ・ラジオを前に熱い声援を送り続けてくださった卒業生の皆様のおかげで、選手達は伸び伸びと試合することができました。この時いただいたご声援に対する感謝の気持ちを忘れる事なく、今後とも野球部一同努力していきたいと思っております。本当にありがとうございました。


終了直後の北高ナイン

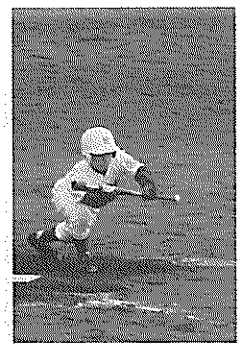
夢の甲子園

松江北高校前校長　皷嶋　弘明

今年三月の第七十四回選抜高校野球大会出場に際し、多くの人に物心両面に亘り支援をいただきありがとうございました。甲子園出場は本校の文武両道の実践の中で、多くの関係者の願望でありました。私も校長着任時から春のセンバツ一本に絞り、奔走して参りましたが、野球部の努力で夢の甲子園が校長三年目の最後に実現いたしました。

三月十五日に対戦相手が福井商と決定してから眠れない夜が続きました。言うまでもなく多くの支援者に好試合をする事が最大の誠意を示す事であるからです。ただ選手に頑張って欲しいだけでは私の性分からすまされなく、専門家に福井商を徹底分析をしていただきました。大島監督と共に指導を受け福井商の弱点は内角高めの直球にあり十日間、投手楠井君に内角高めの直球と今まで投げた事のない外角スライダーを徹底的に練習させました。試合はこの戦略を中心にし好ゲームでした。いくら戦略はあったとは言え、あの大舞台で素晴らしい試合をした監督、部長、選手のすごさに感動し、感謝の気持でいっぱいです。この日は私にとって退職の日であり、最後西尾主将から試合で使用された記念のボールをもらい、泣きながら松江に帰りました。多くの関係者の方に感謝いたします。ありがとうございました。

円陣を組み気合を入れる


バントを決める
キャプテン西尾

「甲子園の思い出」

野球部キャプテン　西尾　大樹

今ではもう半年前のことで（この文章を書いているのは9月上旬のことです）昔の話のようになるようですが、今でも鮮明に記憶しています。もちろん甲子園のことです。甲子園出場が決まり、甲子園での試合が終わるまで色々なところで色々なことを言ってきましたが、今になってその時の事を思い出すととても甲子園出場を喜び、試合が出来る日を楽しみに待っていましたが、その反面不安もありました。しかし負けはしましたが一生懸命やれた事を今では誇りに思っています。これは部員みんなが思っている事だと思います。これからの人生でとても貴重な体験が出来、それを支えてくれた人達に感謝しています。この場をかりて言わせてもらいます。

ありがとうございました。

「感動をありがとう」

北高第42期　高井　伸賀

「甲子園」私がプレーしていた時代、野球部員として何度となく口にしたであろう言葉に現実味は無かった。大学進学後、アメリカンフットボールを始めたが、そこでは日本一という言葉が本当の言葉として発せられていた。冬の甲子園、東西学生王座決定戦が行われる。三度大学日本一を経験することができた場所である。

しかし、この日ほど胸躍る甲子園はなかった。グランドの選手、控えの選手、応援団、我々OB、そこにいる人全てが一つになっていた。卒業年度の近いOBが集まって応援していたが、これほど一球一球に集中し一喜一憂したのは初めてだった。OBとして後輩の試合を応援しているというより、憧れのチームを応援しているようなそんな感覚で、目の前でプレーしている選手を尊敬の眼差しで見ていた。

スポーツは曲線的には上達しない。階段を上るようにあるとき急に新たな世界に入るのだ。甲子園でプレーしている彼らは既に大きな階段を上り、我々の眼では見えないものを見ているのだと思った。だからこそ彼らには勝ってほしかった。この地での勝利は更に彼らを大きくするはずだから、敗戦から多くのことを学ぶと言うが、逆に勝利からしか学べないものもあると信じている。勝つことでもっともっと強くなって、成長して、新しい世界を、新しい自分を感じてほしかった。

甲子園を実際に経験したメンバーが、この一年の取組み・出来事を特別なものにするのではなくスタンダードなものにして、毎年、このような楽しみを与えてくれることを願っております。

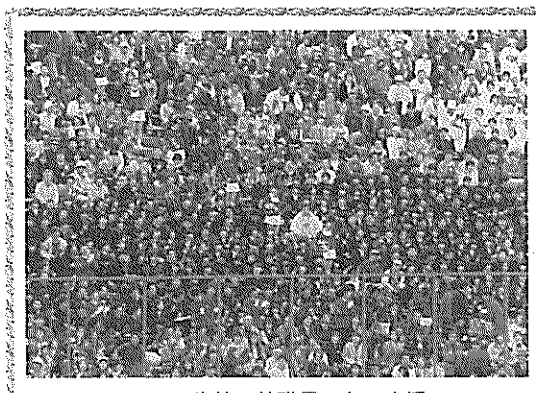
応援賞受賞

第74回選抜高校野球大会において北高応援団は優秀賞に選ばれました。

この賞は模範となる応援を行った応援団に贈られる賞で、最優秀賞1校と優秀賞5校が選ばれ、北高は後者のうちの1校に選ばれました。

北高の応援について、大会本部は「学生と一般の連係がよく取れた元気いっぱいの応援。甲子園で応援することの喜びを教えてくれた。グラウンドとの一体感も抜群で、模範となる応援だった」と高く評価しました。

21世紀枠での選出、選手の好試合に加え、一致団結した応援までも評価され、55年ぶりの甲子園出場に大きな花が添えられました。


ＯＢ・生徒・教職員一丸の応援

本校に贈られた盾

第74回選抜高校野球大会決算書

【収　入】　（単位：円）

費　目	予算額	決算額	比較増減	摘　要
寄付金	73,990,000	98,215,674	24,225,674	
交付金	1,000,000	6,526,420	5,526,420	松江市、高野連本部からの交付金
雑収入	10,000	2	△ 9,998	預金利息
合　計	75,000,000	104,742,096	29,742,096	

【支　出】　（単位：円）

費　目	予算額	決算額	比較増減	摘　要
総務費	8,000,000	5,581,481	2,418,519	趣意書・芳名録等印刷代、礼状宛名シール作成代、賃金、事務用品外
広報費	3,000,000	5,385,677	△2,385,677	新聞・テレビ・看板等の広報代
通信費	5,000,000	4,428,790	571,210	礼状等郵送料、電話代外
用具費	7,000,000	7,337,231	△ 337,231	カーブマシーン、レガース購入代外
強化費	3,000,000	1,204,516	1,795,484	練習試合遠征宿泊代外
選手派遣費	8,000,000	6,044,804	1,955,196	選手等大会派遣バス代　宿泊料外
応援費	29,000,000	15,877,023	13,122,977	甲子園入場券代、応援生徒バス代、メガホン等応援用具代、ブラスバンド楽器修繕等代外
記録費	3,000,000	4,787,895	△1,787,895	アルバム作成代、記録用機器購入代外
雑費	3,000,000	6,148,831	△3,148,831	大会出場記念品代外
予備費	6,000,000	0	6,000,000	
合　計	75,000,000	56,796,248	18,203,752	

収入合計 － 支出合計	47,945,848

残金は松江北高教育後援基金として活用させて頂きます。

平成十四年度 役員会の報告

本年度の役員会は、七月十三日（土）、十一時より本校会議室に於いて井戸内会長を議長として、次の議題について審議が行われた。

一、平成十三年度会務報告
二、平成十三年度決算報告
三、平成十四年度会務計画
四、平成十四年度予算案審議
五、その他

議題一～四については原案どおり承認された。五の議題では、春季選抜高校野球大会の決算報告と、近年の大きな課題である双松会一般会計の逼迫と対応策について話し合われた。そして今後とりうる対応策として会員の皆様から資金援助をお願いするという方針で、了承された。

平成十四年度双松会役員

顧　問　柴田　午郎（松中44期）
〃　兼折　博（松中52期）
〃　金築　修（松中61期）
会　長　井戸内　正（松中65期）
副会長　松本　幹彦（松高1期）
〃　山本　隆志（松高6期）
〃　和田　秀穂（北高校長）
幹事長　景山一功朗（松高2期）
副幹事長　田中竹次郎（北高13期）
常任幹事　諏訪　秀富（松中65期）
〃　井原　泰（松高3期）
〃　庄司　肇（松高11期）
監　事　山口　榮一（松中67期）
〃　古瀬　誠（北高16期）
事務局長　中西　秀夫（北高教頭15期）

事務局より

◎ご退職および転出された方
11期　古津康隆先生　ご勇退
11期　北脇和子先生　ご勇退
16期　山崎憲治先生　緑が丘養護学校へ
17期　佐藤　健先生　松江東高校へ
17期　飯塚順子先生　県立図書館へ
30期　野々村卓先生　川本高校へ
38期　石橋美香先生　松江南高校宍道分校へ
45期　安達二美代先生　出雲高校へ

◎お迎えする方
20期　青木次郎先生　全日制・事務（松江南高校より）
26期　細木啓義先生　通信制・地歴（大東高校より）
33期　鐘築美幸先生　高文連事務局
38期　松尾弘子先生　全日制・英語（津和野高校より）
42期　武藤立樹先生　全日制・地歴（隠岐島前高校より）
44期　三代智子先生　全日制・理科（大東高校より）

通信制役員会報告

事務局

平成十四年度役員会が次のように行われました。

日時　七月二十日（土）午後三時～
場所　松江市黒田町　まがたま会館
出席　役員三九名、学校側五名（和田校長、勝部教頭、佐藤・吉野・細木各先生）

議事　①十三年度会務・会計決算報告　②十四年度事業計画・会計予算案審議…全国高校定通制体育大会出場補助金を一人あたり三千円とする。地域・期別同窓会を活発にする他）③会則改正…卒業生数の増加に対処し、地区担当の機能も持たせるため副会長を従来の二名から若干名とする。事務局長、事務局員の設置他　④役員改選…藤原万也会長勇退。新会長野津裕（松江S43）。顧問和田校長、藤原万也。副会長広永浩二（美都S40）、坂本育穂（松江S42）、瀬崎鶴夫（安来S43）、加納昭則（金城S43）、森山峯也（尼崎S45）、中島実（松江S50）、伊東健治（斐川S55）、奥谷壽久（西郷S56）。監事後藤寛（松江S45）、高木恵美子（松江S45）。理事五十三名。（住所と卒業年）

その他　議事④のとおり会長が交替となりました。藤原前会長は、三十年間に亘って本会の発展に尽くしてこられましたが、今回勇退され、野津新会長にバトンタッチされることになりました。席上、永年の功績に対し、感謝状と記念品が贈呈されました。

※役員会については、松江北高通信制課程のホームページにも載っています。母校の様子と併せてご覧下さい。
（http://www.shimanet.ed.jp/tsushin/）

通信同窓会会長退任にあたって

藤原　万也（一元）

私事、このたび一身上の都合により同窓会会長を退任いたしました。

振り返れば昭和四七年から三十年間同窓会のお世話をしたことになりますが、もとよりこの間に母校は大きく変貌しました。僅か一名の卒業生で始まった通信教育部が私が卒業しました年で三一名、全体の総数でもようやく百三十名余りに過ぎなかったのですが、今年の卒業生は私の時の約五倍、全体数も三千八百六十数名を数えるに至っていることを思えば誠に、今昔の感に耐えません。

勿論その間学校としても教育指導上の様々な諸施策及び施設の拡充や整備が行われた訳ですが、私としては新双松会発足に伴う昭和五十六年の通信制同窓会会則の変更で、松高統合以前の浜高通信教育部（卒業生十名）をこの時に切り離さざるを得なかった事が深く印象に残っています。次には赤山移転で、同窓会館建設寄付について通信制として少しばかりのお手伝いをさせて頂きました。また、些か馴染みの薄かった双松会との関係においては両者の架け橋の積もりで役員会は勿論、節目節目の催事には積極的に参加し、少しでも通信制の存在をアピールできたと思っております。

さて、現在の通信制を取り巻く状況は、将来の定通独立校を含めて幾多の問題を抱えております。私達卒業生としては、どのようなものであれ通信制で学ぶ後輩諸君がより充実した環境の下でより豊かな教育が受けられるよう、できる範囲内での助力を捧げ、見守って行きたいと思います。その為にも野津新会長の下で一層絆を強めた同窓会になる事を期待します。

終わりにこの度の退任にあたり、同窓会より感謝状並びに記念品を頂きました。誠に望外の事で、これまで頂いた皆様のご指導ご協力への御礼に併せて心から感謝を申し上げる次第です。

ご挨拶

松江北高通信制同窓会会長　野津　裕

このたび藤原万也前会長からバトンタッチを受けることになった野津でございます。昭和四三年に卒業して以来、通信制同窓会のお世話を微力ながらさせていただいてはおりましたが、三十年の永きにわたり会長をつとめられた藤原会長の後任を、浅学の私が果たせるかわかりませんが、力一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。

さて、通信制課程も年々充実され、卒業生も近年は、百五十名を超えるようになっており、同窓会としては誠に喜ばしいことと思っております。今後もさらに多数の卒業生を会員として迎えられることを希望しております。

同窓会の役員体制も本年より副会長を増員し、県内の各市・郡および県外の同窓会員まとめ役と、地域での同窓会の活性化の推進役をしていただくことになりましたので、同窓会に関しての問い合わせ、連絡をよろしくお願いします。

最後になりましたが、会員の皆様の益々のご健勝を祈念しまして会長就任のご挨拶と致します。

平成13年度 双松会会計決算書

収入総額	¥5,320,905
支出総額	¥4,113,195
差引残高	¥1,207,710

【収　入】

費　目	予算額	決算額	比較増減	備　考
入会金	3,110,800	3,242,200	131,400	全日制　延べ14,211人×200円 通信制　160人×2,500円
繰越金	2,064,405	2,064,405	0	平成12年度からの繰越金
雑収入	4,795	14,300	9,505	預金利息、寄付金
合　計	5,180,000	5,320,905	140,905	

【支　出】

費　目	予算額	決算額	比較増減	備　考
会議費	300,000	70,000	230,000	各地総会参加費
印刷費	450,000	409,500	40,500	会報印刷代
通信事務費	2,500,000	2,210,872	289,128	会報発送代、役員会案内など
記念品費	550,000	496,860	53,140	オルゴール代、卒業証書用筒
旅費	320,000	210,400	109,600	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	100,000	9,765	90,235	
予備費	910,000	655,798	254,202	12年度印刷費、甲子園関係
合　計	5,180,000	4,113,195	1,066,805	

平成14年度 双松会会計予算書

【収　入】

費　目	本年度予算額	昨年度予算額	比較増減	備　考
入会金	3,024,400	3,110,800	△ 86,400	全日制　延べ13,872人×200円 （1,156名×12ヶ月） 通信制　100人×2,500円
繰越金	1,207,710	2,064,405	△856,695	平成13年度からの繰越金
繰入金	203,710	0	203,710	甲子園関係
雑収入	4,180	4,795	△　615	預金利息など
合　計	4,440,000	5,180,000	△740,000	

【支　出】

費　目	本年度予算額	昨年度予算額	比較増減	備　考
会議費	300,000	300,000	0	役員会、各地総会補助
印刷費	450,000	450,000	0	会報印刷代
通信事務費	2,500,000	2,500,000	0	会報発送代、役員会案内など
記念品費	550,000	550,000	0	オルゴール代、卒業証書用筒代
旅費	320,000	320,000	0	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	100,000	100,000	0	慶弔費など
予備費	170,000	910,000	△740,000	
合　計	4,440,000	5,180,000	△740,000	

平成13年度決算報告

松江北高校通信制同窓会

【収　入】

費　目	小分類	予算額	決算額	摘　要
繰越	繰越	436,266	436,266	
	計	436,266	436,266	
会費	新入会費	450,000	480,000	@3,000×160
	計	450,000	480,000	
雑収入	雑収入	2,000	94	預金利息
	計	2,000	94	
合　計		888,266	916,360	

【支　出】

費　目	小分類	予算額	決算額	摘　要
会議費	役員会費	50,000	52,074	
	地域会議費	50,000	0	
	計	100,000	52,074	
事業費	事業費	100,000	30,000	双松会125周年記念事業寄付
	計	100,000	30,000	
事務費	事務費	10,000	3,985	役員会案内葉書・送金費
	計	10,000	3,985	
雑費	雑費	400,000	313,650	全国定通大会参加補助費(一人2,500円) 新入会員記念品(オルゴール、卒業証書筒) 女子バレーユニフォーム 中国地区定通制教育振興大会協賛広告掲載料
	計	400,000	313,650	
予備費	予備費	278,266	200,000	特別会計（積立金）へ
	計	278,266	200,000	
合　計		888,266	599,709	

差し引き　916,360－599,709＝316,651を次年度へ繰り越し

特別会計（積立金）

前年度まで	294,850
一般会計より繰入	200,000
預金利息	347
合　計	495,197

平成14年度予算

【収　入】

費　目	小分類	前年度予算額	本年度予算額	摘　要
繰越	繰越	436,266	316,651	
	計	436,266	316,651	
会費	新入会費	450,000	480,000	卒業予定160人
	計	450,000	480,000	
雑収入	雑収入	2,000	349	
	計	2,000	349	
合　計		888,266	797,000	

【支　出】

費　目	小分類	前年度予算額	本年度予算額	摘　要
会議費	役員会費	50,000	50,000	
	地域会議費	50,000	50,000	
	計	100,000	100,000	
事業費	事業費	100,000	100,000	
	計	100,000	100,000	
事務費	事務費	10,000	10,000	
	計	10,000	10,000	
雑費	雑費	400,000	400,000	全国定通制体育大会出場補助（一人3,000円）
	計	400,000	400,000	
予備費	予備費	278,266	187,000	特別会計（積立金）へ 100,000
	計	278,266	187,000	
合　計		888,266	797,000	

全国定通体育大会報告

八月におこなわれました各競技の結果は、次のとおりでした。

○剣道（日本武道館）
男子　今岡　宏孝　…　ベスト8
コー　飯田（東京）三回戦
メー　鈴木（茨城）四回戦
ーコ　齋藤（神奈川）準々決勝

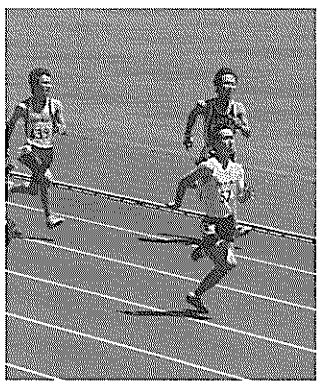
○卓球（代々木第二体育館）
男子　三宅　拓真　…　ベスト8
3－1飯田（新潟）四回戦
3－2木村（大阪）五回戦
1－3牟田（福岡）準々決勝
中路　貴人　一回戦敗退

○バスケットボール（東京体育館）
男子
松江北　36－84　新潟（高田南城）

○陸上（国立競技場）
木村優太　百・二百m　準決勝進出
一六〇〇mR　予選5位（島根）

○バドミントン（小田原アリーナ）
男子　大谷尚平　一回戦敗退
女子　渡辺康恵　一回戦敗退

卓球競技に参加した三宅・中路両選手


力走する木村選手

米子双松会 創立三十周年記念総会

副会長　坂本　節夫

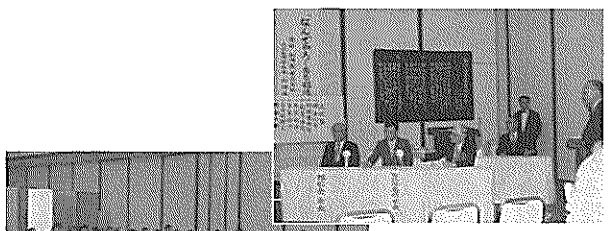
平成十四年七月二十一日米子国際ホテルに於て、米子市長はじめ来賓多数のご臨席のもと式典が挙行されました。

内田健二郎米子双松会会長の挨拶、井戸内正双松会会長の祝辞、米子市長の祝辞と続き、黙祷、歴代会長表彰ありで厳粛なうちに終了致しました。

第二部は、和田亮介先生（松高一期）の講演会。題して『何でやろーある船場商人の想い』。約90分キッシリの講演は〝内容満載〟。会場一杯二〇〇名余りの聴衆がメモをとっておられたのが印象的で、米子市民に強い感動を与えた素晴らしい講演でした。

第三部祝宴。満席の会場に、コロンビア専属演歌歌手長谷川桂子さんの飛び入りがあり最高の盛り上がりとなりました。ボリューム満点のこの方、紅白出場が間近い様です。

米子双松会は昭和四七年の創立で、僅か数名の発会でしたが、年々増え続け今日では五〇〇名を数えるに至りました。常に母校松江北高校の発展を念じ乍ら、部会活動なども活発にやっています。娯楽部会、ゴルフ部会、旅行部会等々です。米子双松会ここにあり。


写真向って右より
内田米子双松会会長
和田校長
井戸内双松会会長

盛会の会場

平成14年度学園祭 テーマは「燁（よう）」

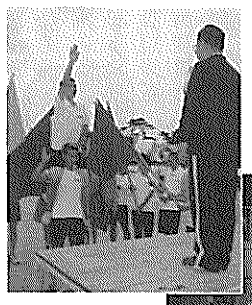
生徒会長　門脇　裕

九月五日から三日間学園祭が開催されました。今年度の学園祭テーマは「燁～届けこの思い…」でした。このテーマには北高生一人一人が輝きそして一人一人が主役になってほしいという願いが込められています。みんなが放課後遅くまで話し合ったり作業したりしてすばらしい作品を作り上げたことからも、このテーマに込められた願いはみごとに達成されたと思います。

僕たち執行部も学園祭を成功させるため最善を尽くしました。北高フォーラムのテーマ決めでは担当者が放課後遅くまで考え、それでもいい案が出ず家に持ち帰ってまでしておもしろいテーマを作ることに努めました。体育祭の競技も短い時間の中でみんながどうしたら盛り上がれるだろうと一生懸命考えました。フィナーレは今までで一番盛り上がれるものにしようと当日の朝まで担当者が集まって話し合っていました。その甲斐あって今までと違ったすばらしいフィナーレを行うことができました。その他のイベントの担当者もみな自分の時間を削って頑張りました。彼らなしでは今日の学園祭は成功していなかったでしょう。

今回の学園祭は今まで以上に盛り上がったすばらしい学園祭でした。

学園祭
北高コンサートの模様


体育祭
肩車をしての選手宣誓

第40回島根県高等学校総合体育大会結果報告

5月25日（土）から6月2日（日）まで、県内各地を会場に第40回島根県高等学校総合体育大会が行われました。今年は男女総合優勝5連覇が期待されましたが、惜しくも総合優勝は逃しました。しかし北高生らしい溌剌とした戦いぶりは私たちに感動を与えてくれました。

総合成績
男女総合Aグループ　2位（一九六点）
男子総合4位　（七八点）
女子総合1位　（一一八点）
2年連続6回目

全国大会出場者
●ボート
川本　裕太・吉田　大輔
山本　悠貴・大野未来子
宮広　良子・門脇　明香
中嶋有利子・林　未来
河原由香里・磯田　美穂
佐野　美夏・上谷　由貴
西川　晶子・南波　有利
●テニス
赤松　学・温品　俊一
持田　誠也・伊原　和彦
星村　純平・南波　香織
是津みゆき・錦織　礼奈
庄司　礼絵・的野　祥子
●柔道
向村　憲一
●バドミントン
秦　愛子・福原　麻子
●水泳部
又賀由美子
●陸上競技
井上　千里・清水　遙
田中　希・永田　知子
新田　佳世・小林　可奈
楠井　乙馨
●空手道
福本　隆介

主な成績
●陸上競技部
男子
四百MR　池本　5位
走高跳　船越　5位
八百M　生田　3位
三千M障害　3位
千六百Mリレー
女子
百M　清水　1位
二百M　永田　3位
井上　1位
四百M　清水　2位
永田　3位
楠井　3位
小林　4位
八百M　日笠　2位
千五百M　日笠　3位
千M障害　井上　1位
井上　1位
四千M障害　1位
四百Mリレー　清水　1位
千六百Mリレー　1位
走幅跳　清水　1位
新田　3位
新田　3位
7種競技　井上　1位
女子総合得点　1位
トラック得点　3位
7種競技得点　3位
フィールド得点
●柔道部
男子
団体　1位
個人　百kg級　向村　1位
●バドミントン部
男子
団体　ベスト4
個人　ベスト8
女子
団体　ベスト8
個人シングルス　秦・福原　ベスト8
個人ダブルス　秦・福原　準優勝
●男子バスケットボール部　ベスト8
女子
団体　1位
●女子バスケットボール部
●男子テニス部
団体　優勝
個人シングルス　星村　1位
赤松　2位
持田　3位
温品　4位
ダブルス　井原・平塚　ベスト8
温品・星村　1位
赤松・持田　2位
日高・岡田　3位
古原・平塚　4位
個人組手　福本　ベスト8
●登山部
男子　鎌田　3位
女子　福本　2位
●体操
男子団体総合　横田　4位
個人跳馬　横田　6位
個人平行棒　横田　6位
種目別フープ　徳島　5位
ボール　三木　6位
三木　5位、徳島　6位
●卓球部
男子　団体　ベスト8
女子　団体　ベスト8
●剣道部
男子
個人　吉田・岩崎　ベスト8
●男子バレーボール部　木田　3位
●女子バレーボール部　ベスト8
●弓道部　ベスト8
女子団体　2位
●水泳部
男子
五十m自由形　佐々木　6位
百m背泳ぎ　熊野　3位
二百m背泳ぎ　佐々木　3位
熊野　4位
百m平泳ぎ　福原　3位
二百m個人メド　福原　3位
四百mリレー　5位
八百mリレー　3位
四百mメドR　5位
総合　4位
女子
四百m自由形　大内　1位
八百m自由形　大内　1位
百m背泳ぎ　又賀　5位
百m平泳ぎ　福井　6位
二百m平泳ぎ　福井　5位
●ボート部
男子
シングルスカル　吉岡　2位
ダブルスカル　吉田・川本　1位
舵手付クオドルプル　4位
女子
シングルスカル　西川　1位
ダブルスカル　林　2位
宮広・上谷　1位
佐野・門脇　2位
舵手付クオドルプル　1位
●空手道
男子
団体形予選　2位
団体形決勝　3位
個人形決勝　2位
福本　3位
鎌田　3位

今春の進学状況

今春の進路状況について報告させていただきます。

受験人口の減少に伴い下降線をたどっていたセンター試験の志願者数が、社会の経済情勢の悪化から増加に転じ六〇万人を初めて上回り、過去最高になりました。特に、経済情勢の厳しさを実感させられたのが前年までなかった求人票の取り消しの多さでした。国公立大学への進学希望者数の大幅な増加、力を持った浪人生の増加、センター試験の難化等厳しい入試でした。その中で、卒業生達は夢の実現に向けて最大限の努力をし立派な成果を残してくれました。合格者の数だけでなく合格校の内容の面でも立派なものでした。学校の授業を中心とした学習習慣を早くから確立し、総体四連覇を果たした後、学習への切りかえ時間を有効に活用し目標を実現していった生徒達には逞しい力が秘められているのだと実感させてくれました。文武両道の実践は酷なものだと思います。ですが、毎日の苦しさの中でやり抜こうという強い意志、実行力が涵養され、生徒達の持っている資質が磨き上げられていると実感させられました。

進路状況につきましては、下記の表にその結果をまとめましたが、幾つかの特徴をあげてみます。国公立大学の合格者数も、難関校といわれる大学にも例年に劣らない結果を残してくれました。東京大学九名、大阪大学一七名、医学部医学科一四名などをはじめとして、地元島根大学には五六名が合格しました。私立大学の合格は五三三名に達しました。早稲田、慶応、関関同立に約一二〇名と、難関校にも多数合格しました。看護医療系の大学・専門学校が増えたのも今年の特徴でした。

また、昨年度は他校から一〇名の入学生を迎えました。補習科での学習で力をつけ、東京大、京都大、大阪大をはじめそれぞれ目標とする進路を実現していきました。予備校ではなく本校に生徒を送って下さる他校からの信頼にも応えていきたいと考えています。

社会の閉塞感を打破する「生きる力」を持った人材育成への期待が高まる中、完全学校五日制がスタートしました。学校での総学習時間数が減少する一方で、国公立大学の入試科目は増加の方向に進んでいます。学びへの意欲の減退も指摘される今の子ども達の意欲をいかに高めるか、休日の増えた生徒達の宅習につながる授業をいかに構築するか、評価のためのテストから育成のためのテストへいかにシフトさせるか、学校に課せられた課題はますます増えていっているのが現状です。ですが、すばらしい資質と能力を持っている北高生ひとりひとりがその力を存分に発揮できるよう、進路指導を一層充実させていきたいと考えています。

今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

平成13年度学校種別合格状況（平成14年5月集計）

	平成12年3月			平成13年3月			平成14年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	234	69	303	234	62	296	231	60	291
公立大学	60	10	70	46	13	59	58	13	71
私立大学	344	150	494	428	142	570	393	140	533
短期大学	38	1	39	43	7	50	40	4	44
専門学校等	22	2	24	21		21	31		31
就　職							1		1
合　計	698	232	930	772	224	996	754	217	971
クラス数	10			10			10		

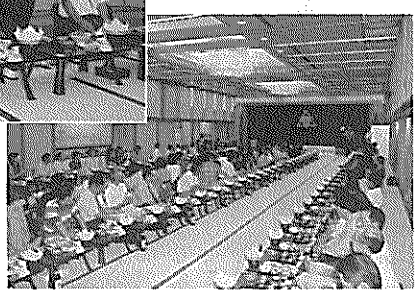
各期だより

卒後三十周年修学旅行？

在学中修学旅行のなかった私達にとって、これは永年のトラウマともいうべきものにまでなっていたのかもしれません。そこで今回、初の試みとして、お泊まりつき同窓会を計画、同期生の実家である玉造保性館で、八月十一日三十年目の修学旅行となりました。

松本幹彦先生、野津和子先生、目次健司先生、吉田靖彦先生と四人の恩師をお迎えしての会は、出席者百五名、うち泊まりが七十二名。懐かしい舟木一夫の「修学旅行」の歌で始まった会は三十年ぶりに所在が確認されて初参加という人もあり、リラックスした浴衣姿もちらほら混じえて、校歌斉唱までなごやかに続きました。その後、旅館前の河原で童心に返って花火を楽しみ、二次会の終了は一応、夜十一時頃でした。ところがそれからが大変。枕投げする人こそなかったものの、話は尽きず、大抵の人は明け方三時半就寝という所。三十年来の憂さが、一気に晴れました。

懐かしい恩師の方々



久々の再会に話もはずむ

三十三期同窓会

北校第三十三期（昭和五十七年卒）では、八月十日、ホテルむらくも（松江市）にて高校卒業後初めて、学年全体での同窓会を開催しました。

今年は高校卒業後丸二十年という記念の年でもあり、地元在住のものを中心に年末頃から準備に取り掛かりました。その矢先、北校野球部の二十一世紀枠での甲子園出場も決まり、二重の喜びとなり一層同窓会ムードも盛り上がりました。高校卒業後初の同窓会ということで同窓生の連絡先の確認にはかなり手間取りました。最終的には一割程度の同窓生の連絡先は確認できませんでしたが、八割強の同窓生から出欠の返事が返って来て、やむなく不参加の同窓生からも多くのメッセージが寄せられました。

同窓会当日の参加者は三年時の担任・副担任であった恩師十名（嵐先生、小田先生、加藤先生、目次先生、吉野先生、松浦先生、高橋（肇）先生、石原先生、勝部先生、鞍島先生）と同窓生百四十名となり、盛大な同窓会となりました。

和やかな雰囲気の会場

同窓会は同窓生代表の挨拶に続き、ご逝去された恩師・同窓生への黙祷、近況報告を含めた恩師の先生方のご挨拶、そして石原先生の乾杯のご発声から歓談へ。二十年ぶりに会う同窓生も多々あり、あちらこちらで二十年前を懐かしむ声が聞かれました。中には卒業アルバムで確認しつつ、声をかけているものも見かけられました。また、これを機会に定期的な開催を望む声もたくさん聞かれ、今後も地元在住のものを中心に開催していきたいと考えています。同窓会のアトラクションとして現役のミュージシャンとして活躍中の松阿弥君のミニコンサートも開催され、同窓会を盛り上げてくれました。同窓会一次会終了後は各クラス毎に二次会へと。この日の夜は遅くまで東本町や伊勢宮町で松江北校の校歌が歌われたのではないでしょうか。

最後になりましたが、同窓会の企画を進める上で双松会事務局の方や北高の先生方には多大なご協力をいただきまして誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

【双松会報】の発刊に関わる諸経費補助のお願い

皆様既に御承知のことではありますが、現在、双松会会計の大部分が本会報の印刷・郵券代で占められており、その経費は、在校生が卒業するまでに納める入会金に依拠しております。

毎年度の活動費としての不足分は同窓生名簿「双松」の販売収入等で補いつつ、何とかやりくりをしてきましたが、本年度から学級が年次的に一学級ずつ減少することになり、財源の確保が非常に難しい状況となりました。

つきましては、会員の皆様方から浄財を募り、会報の印刷・郵送代の補填をさせていただければと考えております。どうかこの窮状をお酌み取りの上、**同封の郵便振替払込用紙にて一、〇〇〇円**をお振り込みいただければ幸いに存じます。

出費多端の折とは存じますがなにとぞ御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

双松会会長　井戸内　正

松籟（しょうらい）

昨年度は本校にとって「二本松決別・新生式」野球部の甲子園出場という大きな出来事がありました。その毅然凛乎とした樹容の風格が、無言の訓を示していてくれた双松の残りの一本が、松食い虫のため枯れてしまい、昨年十月二十四日に双松訣別式がとりおこなわれ、十月二十七日には斧入れ式が行われました。多くの先輩諸氏が、最後の姿を見にいらっしゃり、往事を偲ばれ感慨ひとしおのように見受けられました。細心の手当にもかかわらず枯れてしまったことは残念なことでした。新生松が生長し、新生双松として後輩達を見守ってくれる日を待ち望んでいます。◆十一月十七日には多数の会員の出席のもと、創立百二十五周年記念総会がホテル一畑で開かれました。総会式典、和田亮介近畿双松会会長の講演「人生泣き笑い」の後、祝賀会が開かれ、卒業期毎に用意されたテーブルでは活発な交流がなされました。◆今年一月三十一日午後三時。校長室は歓喜の渦に包まれました。野球部のセンバツ出場です。大学進学実績、県高校総体四連覇、野球部の二年連続秋期中国大会出場と、「文武両道」の校風が高く評価されての「二十一世紀枠」での出場。実に五十五年ぶり二度目、ナインをはじめ、生徒、卒業生、市民が待ち望んでいた出場でした。試合も全日本代表のエースを擁する常連校福井商業を相手に、存分の力を発揮し、野球部史上初の全国大会での本塁打、無失策、最後に見せた九回二死後の反撃、もしかしたらといい夢を見せてくれました。「選手達が晴れ舞台で活躍できるように」と、寄せられた声援、支援の数々ありがとうございました。◆ベースボールの元の名は「タウンボール」。民主主義の源流「タウンミーティング」の折りに行われていたからで、そこでは「打つ」ということは、集会で積極的に討論に加わることと同じで、打席に立ちながら、積極的に打ってでないのでは、打者になった意味はなく、せっかくの権利を無駄にすることになる。」と考えられていたそうです。◆夏の暑さの中、文武両道を合い言葉に汗をながしながら学習に取り組んでいる生徒達が、「どんな弱い者にも、平等に与えられている打つ機会。打席に立てば、無限に向かってどこまでも、好きなだけ遠くに打つことのできる自由」を活かし、自分の夢を遠く大きく開かせてくれるのを切に望んでいます。